

ダンスを通じて交流

中田体育館でレクダンス

「第18回登米市レクダンス・サークル交流会」(市レクリエーションダンス連絡協議会主催、高橋正子会長)は11月25日、中田総合体育館で開かれ、市内外から23団体、約350人が参加し、レクリエーションダンスを通じて交流を深めました。

同交流会は、中高年者の健康維持と仲間づくりが目的。各サークルは、そろいの衣装で「登米市市民歌」「ビリーブ・ビリーブ」などの音楽に合わせて、見事なダンスを披露しました。伊藤智子さん(81)＝中田町城内＝「年1回のこの日を楽しみにしています。仲間と踊って笑って気分がいいですね」と笑顔を見せていました。



一糸乱れぬ踊りを披露する参加者ら。レクダンスは、性別年齢を問わず気軽に楽しめる運動で、多くの人に愛されています。

ネギで親睦を深める

伊豆沼で市青年交流事業

市青年交流事業「ネギからはじまる…」(市青年団連絡協議会主催、澁谷美佳会長)は11月3日、伊豆沼農産ラムサール広場などで開かれ、市内外から32人の青年が参加し、親睦を深めました。

市青少年交流事業は、青年による地域の活性化と豊かな地域社会の創造が目的。参加者らは、6グループに分かれ、ネギの収穫、はっと作り体験やバーベキューなどを楽しみました。ネギは、地元青年会員提供の畑で収穫。土だらけになりながら「抜ける感覚が楽しい」などの声が上がりました。参加者は、本市ならではの体験を通じて親睦を深め、次回の参加を誓いました。



「はっとつみ」は見た目は簡単ですが、やってみるとコツをつかむまで一苦労。参加者らは、悪戦苦闘していました。

まちのために使って

登米高生徒会が市へ寄付

登米高校生徒会(石川愛那会長)は11月27日、市役所迫庁舎へ訪れ、同校文化祭模擬店の運営で得た収益を寄付しました。

同校生徒会は10月30日、移動市長室で熊谷市長と対談。市のまちづくりについて話し合い、街路灯や歩道の設置の要望などをしていました。石川会長は「お願いするだけでなく、自分たちが市にできることをしたいと、全員で話し合い寄付することにしました」と熊谷市長に目録を手渡しました。熊谷市長は「大変うれしいこと。皆さんの期待に応えられる登米市になるよう、まちづくりを進めます」と感謝の気持ちを述べました。



生徒会役員3人は「通学路の安全安心の徹底など、登米市の防災事業に使ってほしい」と話していました。

秋の登米路駆け抜け

登米路でカップマラソン

「第32回カップハーフマラソン」は11月5日、登米総合体育館前を発着点に開かれ、1501人が秋の登米路を駆け抜けました。レースはハーフ、10^キ、5^キなど28種目で競われ、ランナーたちに沿道から温かい声援が送られました。28種目のうち7種目で本市のランナーが上位入賞しました(3位まで)。

【男子】▶ハーフ60歳以上＝②佐藤謙一(登米町)▶2^キ小学4～6年生＝③白石陽太(中田町)【女子】▶10^キ高校生～39歳＝①井波由希(迫町)▶10^キ60歳以上＝②高橋みちえ(豊里町)▶5^キ40～59歳＝②佐藤清生子(豊里町)、③金野美香(迫町)▶3^キ中学生＝①内海菜羽(中田町)【2^キ親子ペア】①渡邊温・愛美(南方町)、③梁川光・貴正(登米町)



テレビアニメのキャラクターの衣装など、仮装するランナーもおり、見物者を楽しませました。

安全安心の確保誓う

市役所で特別警戒出動式

「年末年始特別警戒出動式」は12月4日、市役所迫庁舎で開かれ、市防犯指導隊や市消防団など、23団体約100人が参加し、事件、事故や火災の防止活動に協力して取り組むことを誓いました。

特別警戒出動式は、佐沼、登米両署と市消防本部が協力して実施。熊谷市長は「皆さんが連携を強化し、活動することが、市民皆さんの安全安心につながります。よろしくお祈りします」とあいさつしました。高橋直嗣佐沼署長は「子どもからお年寄りまで、年末年始を楽しく過ごせるよう、みんなで安全安心を守りましょう」と呼び掛けました。



石巻ヤクルト販売登米サービスセンターの伊藤とし子さんが「安心して暮らせる登米市の実現に努力します」と決意表明。

登米市の未来を議論

市議場で子供議会を開会

「子供議会2017」(とめ青年会議所主催、佐藤利尚理事長)は11月8日、市役所議場で開かれ、市内10校から選ばれた20人の中学生が、市長らと議論を交わしました。

子供議会は、中学生にまちづくりへの関心を高めてもらうことが目的。子ども議員は「長沼の水質が良くない」「陸上競技場を建設してほしい」と、意見や要望を質問し、熊谷盛廣市長、佐藤信男教育長らが答弁しました。佐藤萌さんは米山中2年＝は「議会に参加して、あらためて市の事業、歴史や魅力などの勉強が必要だと感じました。市も、中学生が分かるように情報発信してほしい」と、まちづくりへの意識を新たにしました。



「もっと、登米市のPRを積極的にするべき」などの提案も出され、市執行部と真剣に議論しました。